慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	北原
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.12 (1962. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19621201-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

今年は不況への懸念も手伝って、新学年早々、四年生は就職運動に没頭し、夏休み前から入社試験に追われつづけている。このような状態では、大学は、実質的には一年短縮にもなりかねない。これは、大学教育という点から憂慮すべき問題であるが、ここには、現実の労働問題の一端がしめされているといえよう。

就職を前に、学生は、例外なしといっても良い位、大企業に就業しようという強い熱望を持っており、そのためには、卒論の準備も授業も犠牲にして就職運動をせざるを得ない。中小企業における労働諸条件のいちじるしい劣悪さ・雇用の不安定性、中・高年層の就業難・下層転落傾向が、このような学生の大企業への執着を強めるとともに、入社後は、その企業へ定着するための涙ぐましい努力を強制する。

こうした事情は、大学卒以外の労働者の場合でも、共通している。労働力不足というなかでも、中・高年層の就職はいぜんとして暗いし、最近すでに現われはじめた臨時工の解雇（契約更新拒否）、失業対策事業打切り等を通じても、労働者の下層転落と下層における問題の深刻さがうかがわれる。

最近の労働力不足のなかで、あたかも完全雇用が実現されつつあるようにいう学生もいるが、こうした人達は、就職・入社後を通じて、自分達が余儀なくされている行動をどううけとめているのであろうか。

身近なところの矛盾を真剣にとりあげていく努力なしには、現実の経済の正しい認識は不可能ではなかろうか。

（北原）

昭和三十七年十二月一日発行

© 三田学会雑誌　第五十五巻 第十二号

定価　一二〇円（送料一二円）

編集兼発行人　東京都港区芝三田二丁目二番地　慶應義塾経済学会　代表者　山本　登　電話三田（451）五一八一　振替口座番号　東京四四〇五六

印刷者　東京都港区芝三田豊岡町八番地　図書印刷株式会社　安倍七郎

半ヵ年予約講読料（送料共）　七二〇円
一ヵ年　〃　〃　一四四〇円

御希望の方は左記へ講読料を添え御申込み下さい。

発売所　東京都高輪局区内三田綱町一番地　慶應通信　振替口座番号　東京一五五四九七